



DAS KAPITAL

6月学習会へのご案内 第28回 「資本論を読む会」は

日時：2021年6月29日（火）
午後6時30分からオンラインで

次は「第4編 相対的剰余価値の生産

第10章 相対的剰余価値の概念」に入りますよ！（岩波文庫(二)233P）から

第27回目の「資本論を読む会」は5月27日(木)、10名の参加で。無事に第9章の「剰余価値の率と剰余価値の量」終わらせました。これで「第3編 絶対的剰余価値の生産」の項が終わり、いよいよ次回からは「相対的剰余価値」の問題に入ります。

今回の読書会での討論は、またもマルクスの皮肉っぽい？書き方について論争になりました。労働者階級が獲得したイギリスの工場法は「労働時間を法的に規制する」ものですが、

工場哲学者ユアの言った「資本家は『労働の完全な自由』のために男らしく戦ったが、労働者階級は『工場法という奴隷制度』を旗印にしたことは、拭いがたい汚辱と非難する。」(P210)とか『奪うべからざる人権』のかわりに、法律によって制限された労働日の、地味な大憲章が現れる。」(P215)、ナンカについての解釈です。結論は宿題にしました。第9章の「剰余価値の率と剰余価値の量」は、「三つの法則」をめぐるの意見交換でしたか…。9時までフルでやったので、少し皆さん疲れたようです。次回からは「2時間で終わらせる」ようということにしました。

恒例の終了後の「飲み会」では、3区衆議の後継者問題などで、楽しく酒談義が続きました。

次回もリモートで開催。開催時間は6時30分からです。終了後、自主参加の懇親会もやります。

初参加の方を歓迎！ご連絡をお待ちしていますよ。気軽に参加して下さい。

☆「資本論を読む会」のこれまでの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/>「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

パスワードは不要で閲覧できます。

レポーターから --Kai ~~~~~

第九章 剰余価値の率と剰余価値の量

・剰余価値総額を M 、一人の労働者が平均して一日にひきわたす剰余価値を m 、一個の労働力の a 買入れに毎日前貸しされる可変資本を v 、可変資本総額を V 、平均労働力一個の価値を k 、その搾取度を a'

$\frac{a'}{a}$ とし、充用労働者数を n とする。剰余価値の総額 M は次のようになる。

$$\textcircled{1} M = \frac{m}{v} \times V \quad \textcircled{2} M = k \times \frac{a'}{a} \times n$$

① は、「剰余価値の量は、1日平均的に引き渡される剰余価値を、個々の労働力の購入において

日々前貸しされる可変資本で除したものに、可変資本の総額を乗じたものであるということ。

② は「生産される剰余価値の量は、労働力の価値に、労働力の搾取度を乗じ、そのうえに、同時に搾取された労働力の数を乗じたものに等しい、ということを表わす。

・剰余価値の率と剰余価値の量についての、三つの法則

* 第一の法則

・「労賃が同じで利益を上げるには、労働時間を上げる。」剰余価値を維持するには、労働者の数が減少すれば労働者の搾取度すなわち労働時間を引き上げるしかないということに落ち着く。しかし、労働時間の増大にはおのずから限界がある。

* 第二の法則

・「24時間以上の労働はありえない。」ということ絶対的な限界を持つ。

* 第三の法則

・「剰余価値の量は、剰余価値率と前もって雇われた可変資本（つまり労働者の数）によって決まる。」剰余価値率には限界がある以上、剰余価値を上げるには、労働者を多く雇うしかないことになる。